令和６年度 日本大学文理学部個人研究費　研究実績報告書

所属・資格　　教育学科・特任教授

申請者氏名　　北野　秋男

<table>
<tr><td colspan="2">研　究　課　題</td><td>学力と能力の相関関係の研究</td></tr>
<tr><td rowspan="3">報告の概要</td><td>研究目的および研究概要</td><td>近年、わが国では「認知能力」と「非認知能力」に基づく学力の内容について論じる研究論文や研究図書が増加している。報告者も、長年にわたって「認知能力」に基づく「テスト学力」の研究を行い、学力格差と階層格差、家庭格差、地域格差、教育格差などを取り上げてきた。しかしながら、近年において「非認知能力」、すなわち意欲、やる気、持続性、継続性、自己効力感、忍耐力、共感性、やり抜く力など、児童生徒の資質や能力が学力を大きく左右していることを指摘する見解が目立つ。
本研究では全国の都道府県による地方学力テストを用いた「学力」に関する調査研究のなかでも「非認知能力」に焦点を当てた研究を歴史的に整理する。主たる資料は、各都道府県の教育委員会や教育研究所（後の教育センター）から刊行された『紀要』や『報告書』などである。また、現代の「非認知能力」の諸研究の動向を分析するために、様々な学術論文や研究書を収集し、分析する。</td></tr>
<tr><td>研究の結果</td><td>戦後から各都道府県において様々な角度や視点から「非認知能力」の重要性は認識され、それと学力との相関性の解明は繰り返し調査研究の対象となってきた。本研究の目的は、「意欲」「努力」「やる気」「誠実」「社会性」「忍耐力」「好奇心」などといった人間の気質や性格（情意や態度など）と「学力」の相関性を各都道府県において独自の学力テストを利活用して解明することを試みた調査研究の内容を明らかにすることである。
1 年間の研究活動の結果、戦後から平成元年以前では 27 都道府県における 35 件の「非認知能力」に関する調査研究を確認することができた。また、平成元年以降では 9 都道府県における 15 件の調査研究を確認できた。本研究において、「非認知能力」の歴史を「平成元年以前」と「平成元年以後」で区分した理由は、いわゆる「新学力観」による「生きる力」「考える力」への学習指導要領の改訂を区分の目安としたためである。</td></tr>
<tr><td>研究の考察・反省</td><td>本研究では、戦後の「非認知能力」に関する調査研究の実態解明という点では一定の成果があったものの、現代における「非認知能力」に関する研究動向までは調査が届かなかった。そこで、今後は日本で「非認知能力」という言葉が最初に使われたのはいつかを確定するために、国立国会図書館「サーチ検索」において「図書」「雑誌」など全てのジャンルを対象にした「キーワード検索」(「非認知能力」) を行なう必要がある。その結果、386 件がヒットしたが、今後は、そうした図書や論文の内容を確認することが課題となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究発表
学会名
発表テーマ
年月日／場所

研究成果物
テーマ
誌名
巻・号
発行年月日
発行所・者</td><td>※この欄は，本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
1. 日本教育学会第 83 回大会（自由研究発表）「教育諸条件の改善と学力向上-戦後の「地方学力テスト」による調査研究の歴史-」名古屋大学、2024. 8. 29.
2. 日本学習社会学会第 21 回大会（自由研究発表）「学業不振と学力-千葉県・山口県の調査研究の歴史-」畿央大学、2024. 9. 14.

1. .編著『戦後学力テスト研究資料集』(3 巻) クロスカルチャー出版、2024.5.31
第 1 巻（北海道・東北編)、第 2 巻（関東編)、第 3 巻（北信越・東海編）
2. 単著『学力テストのイノベーションとダイバーシティ～全国の学力向上政策の実証的研究～』風間書房、2024.12.20.</td></tr>
</table>